

登録コード	HM239101	開講年度	2026					
授業題目	老年保健学演習 B					担当教員		
英文授業名	Practice in Geriatric Health Science B					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・5時限	木曜・6時限	対象学生	老年保健学ユニット／1 年次
講義室				授業形態	演習	備考	選択科目	
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	(授業の達成目標)	
	2026HM保健学分野加, 2025HM保健学分野加, 2024HM保健学分野加, 2023HM保健学分野加							
	【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力					⇔	医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す基本的な応用力を身につける	
(2)詳細 /Detailed information	老年医学の研究を遂行するための能力を身につける。 一般学習目標GI0（期待される学習効果） 高年齢者の認知機能障害や精神機能の障害と生活機能の障害の関連を的確に捉え、リハビリテーション科学の視点から研究を遂行するための能力を身につける。 認知症やうつ病などの精神障害を有する高年齢者の生活機能障害に対する支援や活動性向上のための治療の有効性について先行研究を取り上げ、他職種との連携を視野に入れた演習形式による指導を行う。 臨床現場でリーダーシップを発揮し問題解決するための臨床評価能力や戦略立案能力、科学的根拠を作成するための研究立案能力の修得を目標とする。 SBOs（行動目標） ・高年齢者の心身機能の加齢変化と関連要因について説明できる。 ・高年齢者の活動能力保持のための方略について説明できる。 ・老年期精神障害の特徴（精神症候と認知機能障害と器質因の相互関係）について説明できる。 ・高年齢者うつ病の総合的マネジメントについて説明できる。 ・保健医療福祉現場へのフィールドワークの実際と課題について意見が述べられる。 ・加齢性疾患をもつ人のADL支援技術における課題と解決策について意見を述べ、ディスカッションできる。							
(3)授業の概要 /Overview of course	高年齢者の認知機能や精神機能の障害と生活機能の障害の関連を的確に捉え、リハビリテーション科学の視点から研究を遂行するための能力を身につける。 認知症やうつ病などの精神障害を有する高年齢者の生活機能障害に対する支援や活動性向上のための治療の有効性や、適合性、理論の妥当性等の課題について先行研究を取り上げ、他職種との連携を視野に入れた演習形式による指導を行う。 事例検討や討論を通して、臨床現場でリーダーシップを発揮し問題解決するための戦略立案能力の修得を目指す。 本授業は担当教員の医療機関や行政機関における精神科医としての実務経験を活かして講義を行います。							
(4)授業計画 /Course plan	第 1回（10月 1日）：研究のテーマと文献レビュー 第 2回（10月 8日）：研究のテーマと文献レビュー 第 3回（10月15日）：研究のテーマと文献レビュー 第 4回（10月22日）：研究のテーマと文献レビュー 第 5回（10月29日）：研究のテーマと文献レビュー 第 6回（11月 6日）：研究テーマのための評価法の演習 第 7回（11月13日）：研究テーマのための評価法の演習 第 8回（11月20日）：研究テーマのための評価法の演習　＜中間試験＞ 第 9回（12月 3日）：外来や在宅支援センター等でのフィールドでの実地演習 第10回（12月10日）：外来や在宅支援センター等でのフィールドでの実地演習 第11回（12月17日）：外来や在宅支援センター等でのフィールドでの実地演習 第12回（12月24日）：外来や在宅支援センター等でのフィールドでの実地演習 第13回（ 1月 7日）：研究デザインと研究計画 第14回（ 1月14日）：研究デザインと研究計画 第15回（ 1月21日）：研究デザインと研究計画　＜期末試験＞							
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	中間試験（11月20日）および期末試験（1月21日）を行う。 試験はレポート形式で行い、中間、期末を総合して、下記の採点基準で採点し評価する。 (i) 問題の設定が適切であり、 (ii) その問題の背景を説明できており、 (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、 (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、 (v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」、(i) ～ (v) の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」、4 項目までできていれば「やや上にある（良）」、3 項目までできていれば「水準にある（可）」。							
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	テキスト、教材、参考書、事前事後学習の内容は、受講者の研究テーマに応じて適宜、指示する。 受講生自ら主体的に探求していく姿勢を期待する。すなわち、教員から指示される資料だけではなく、自らディスカッションに有用な資料を準備して講義に臨むことが重要である。							

(7)質問,相談への 対応/Questions and requests for advice	連絡先 nsugi@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー 木曜の12時~13時, 南校舎2階杉山研究室
(8)授業の形式 /Course format	受講者の研究テーマや研究の進捗状況に応じて講義, ディスカッションを企画する。個別指導で進める。 ZOOMを利用して, オンライン(同期型)で行う。教員から学生への連絡事項, 学生から教員への課題提出などはメールで行う。学生からの質問はメールで随時受け付ける他, オンライン授業の前後でも質問の時間を十分に確保する。